

3割低減農薬栽培のめやす(こしいぶき平坦地)

収量目標と収量構成要素

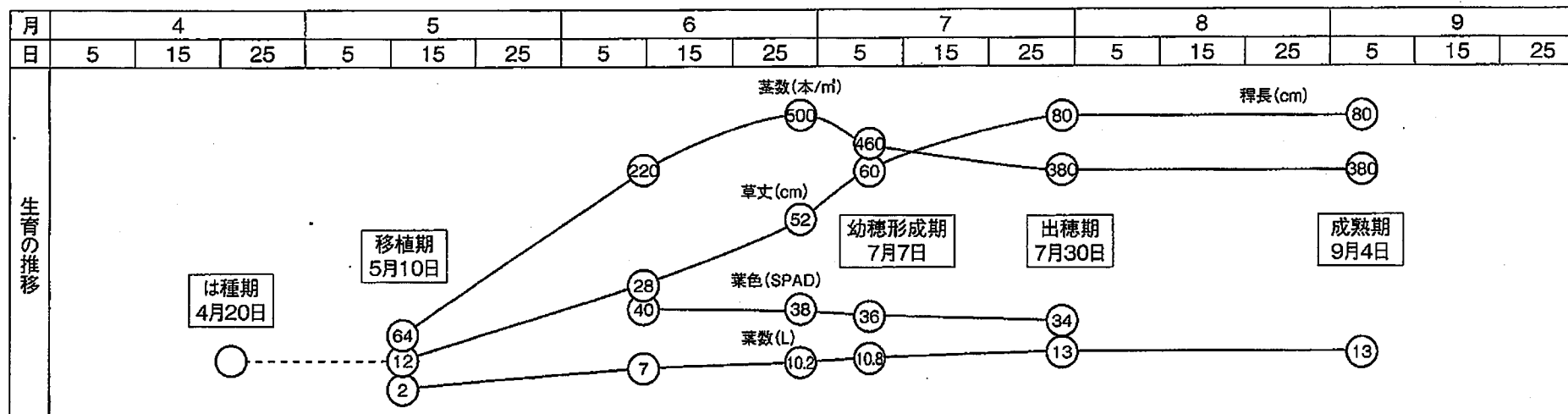
収量 (kg/10a)	540
穂数 (本/m ²)	380
籾数 (粒/穂)	74
籾数 (粒/m ²)	28,000
登熟歩合 (%)	90
千粒重 (g)	21.5

品質目標

1等米比率	95%以上
整粒歩合	85%以上
玄米タンパク含有率	6.2% (水分15.0%換算)

重点推進事項

1. 適正播種期・適正移植期の設定 (播種4/15~25、移植5/10~15)
2. 規格苗の育成 (稚苗2.0葉)
3. 過剰生育の制御
(栽植密度60株/坪、1株3~4本植、適正な元肥施用、溝切り・中干の適期実施)
4. 斑点米の発生防止 (草刈りの徹底、薬剤防除の適期実施)
5. 整粒歩合の向上 (ふるい目1.85mm以上、適正穂肥施用、早期落水の防止)



管理のめやす	◎基肥のめやす (kg/10a)			◎穂肥のめやす (kg/10a)		◎生育量のめやす											
	土性	N	P	K	穂肥時期 (出穂前日数)	穂肥量 (N成分)	最高分げつ期		幼穂形成期		成熟期						
	粘土質	3	7	6	23日	1	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	稈長 (cm)	出穂後 日数	出穂後の 積算気温
	砂質	4	8	6	14日	1	42	540	9.5	40	60	460	10.8	36	80	38	975

栽培のポイント	健苗育成	良質茎の早期確保	適切な生育調節	穂肥の的確な施用	適期収穫で品質確保
	<ul style="list-style-type: none"> 適切な病害対策 は種量 稚苗160~175g/箱(催芽) 温度管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 適期移植の実施 活着後の浅水管理 除草剤の適正使用 	<ul style="list-style-type: none"> 中干し、溝切りの適期実施 (60株植→株あたり本数15本) 中干し後の飽水管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 1回目 出穂23日前 2回目 出穂14日前 落水は出穂25日以降 高温時はかん水実施 	<ul style="list-style-type: none"> 黄化籾85~90% 積算気温975℃ 適正乾燥で胴割れ防止 仕上げ水分は15% ふるい目は1.85mm以上を使用し、整粒歩合を高める。

3割低減農薬栽培のめやす(こしいぶき中山間地 標高300m)

収量目標と収量構成要素

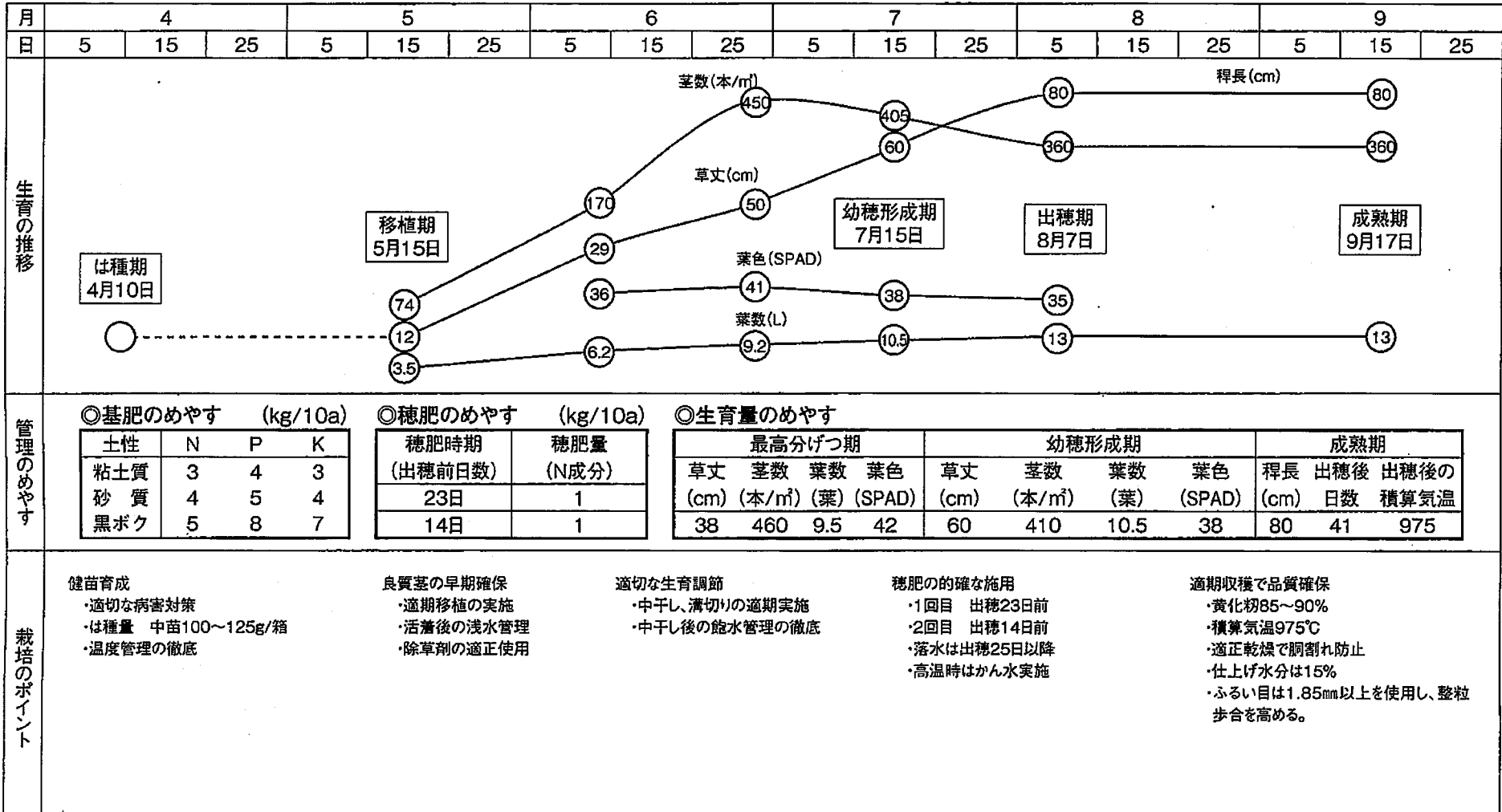
収量 (kg/10a)	510
穂数 (本/m ²)	360
籾数 (粒/穂)	74
籾数 (粒/m ²)	26,500
登熟歩合 (%)	90
千粒重 (g)	21.5

品質目標

1等米比率	95%以上
整粒歩合	85%以上
玄米タンパク含有率	6.2% (水分15.0%換算)

重点推進事項

1. 適正播種期・適正移植期の設定 (播種4/5~15、移植5/10~20)
2. 規格苗の育成 (中苗3.5葉)
3. 過剰生育の制御
(栽植密度60株/坪、ただし茎数確保が難しい場合は70株/坪とする、1株3~4本植、適正な元肥施用、溝切り・中干の適期実施)
4. 斑点米の発生防止 (草刈りの徹底、薬剤防除の適期実施)
5. 整粒歩合の向上 (ふるい目1.85mm以上、適正穂肥施用、早期落水の防止)



8.農薬モデル設計

項目	品名	成分数			処理方法	ポイント	
		コシヒカリ BL	こしいぶき	その他 品種			
種子消毒	モミガードC水和剤	2	2	2	湿粉衣	種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種する	
育苗期	カスミン粒剤	0	0	0	育苗土混和	細菌性病害対策	
	タチガレン粉剤	1	1	1	床土混和	育苗中のカビ病対策 (苗立枯病：ピシウム菌/フザリウム菌) ムレ苗防止	
	ダコニール粉剤	1	1	1	覆土混和	育苗中のカビ対策 (苗立枯病：リゾープス菌)	
育苗箱	パディート箱粒剤	1	※いずれか一剤使用	/	箱処理	新規成分で低感受性のイネドロオイムシにも有効。 長い残効があります。付与類他	
	フェルテラ箱粒剤	1				新規成分で低感受性のイネドロオイムシにも有効。 長い残効があります	
	Dr. オリゼ フェルテラ粒剤	/				2	新規成分で低感受性のドロオイムシにも有効。いもち病と幅広い害虫に高い効果。 山間地・いもち常発地・こしいぶきに使用
	ルーチンエキスパート 箱粒剤	/				/	3
一発除草剤	ウィナー(各剤型) アップレ(各剤型) トップガン(各剤型)	3~4			散布	代掻き~田植えまでを長くしない。 登録の範囲内で出来るだけ早めの散布をする。目安は代掻きしてから10日以内に散布 (但し、田植え後)	
カメムシ防除	スタークル粒剤	1	1	1	本田散布	粉剤2回防除並の効果 (ドリフト注意)	
稲こうじ病他	Z ボルドー粉剤DL	0	0	0	本田散布	出穂20日~10日前までの散布が高い 効果を発揮	
紋枯病対策	バリダシン粉剤	/	0	0	本田散布	こしいぶきを中心に散布	
墨黒穂病	オリブライト粒剤	1	1	/	本田散布	出穂20日~10日前灌水状態で散布	
合計		10~11	11~12	11~12			